

# 鳥取県の政策に関する県民意識調査の結果について

令和4年10月12日  
県民参画協働課

「鳥取県令和新時代創生戦略」に掲げる政策をはじめ県政全般の満足度などについて県民にアンケートする「鳥取県の政策に関する県民意識調査」(第7回)を実施しましたので、その結果について報告します。

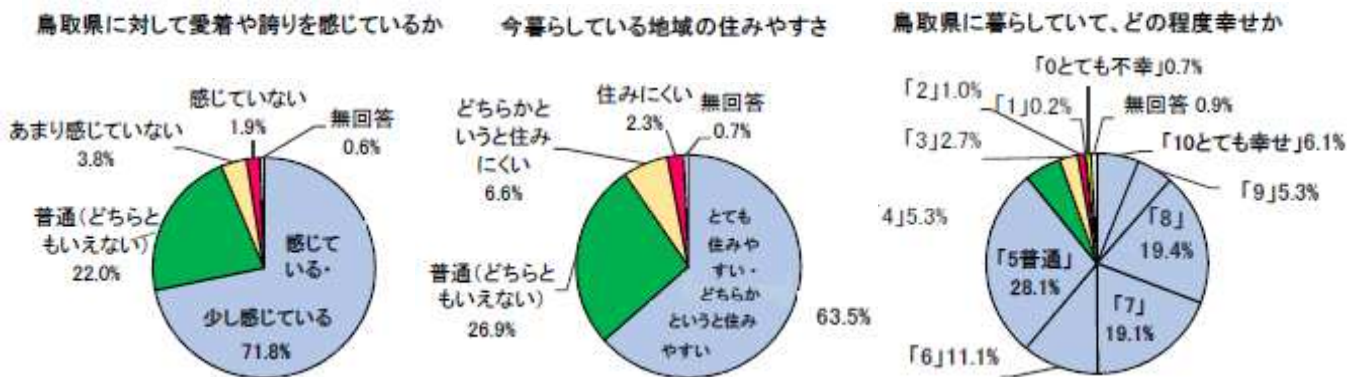
## 1 調査概要

- (1) 目的 県民の関心や意向、要望等の意識を把握するとともに、継続調査をすることで、その意識の変化を把握し、今後の県政推進の基礎資料として活用する。
- (2) 調査対象 県内在住の18歳以上75歳未満の者3,000名(住民基本台帳に基づく無作為抽出法)
- (3) 調査方法 郵送(回答は調査票の返送又は電子申請サービスによる回答のいずれかを選択)
- (4) 調査期間 令和4年6月30日から8月26日まで
- (5) 回答数 1,760名(1,760/3,000名 回答率:58.7%(令和3年度比3.9ポイントアップ))

## 2 結果概要

### I 鳥取県の住みやすさ

- ①「鳥取県に対しての愛着や誇り」には、71.8%の人が「(愛着や誇りを)感じている」と回答し、「今暮らしている地域の住みやすさ」には、63.5%の人が「住みやすい」と回答した。いずれも高い水準ではあるものの、令和2年度からやや減少傾向にある。
- ②「鳥取県の暮らしに関してどう思うか」10項目について聞いたところ、「そう思う」との回答は「豊かな自然環境に恵まれている」が90.9%で7年連続で最も高く、さらに前年度から1.7ポイント増加した。
- ③鳥取県に暮らしていて、どの程度幸せか(10段階評価、10が「とても幸せ」)を聞いたところ、「5」(普通)が28.1%、次いで「8」が19.4%で、「5」以上の回答は89.1%と全体の約9割を占め、前年度(89.6%)に引き続き高い割合となった。



### II 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度

(1) 鳥取県が実施している施策等に関し、①～③のテーマごとに満足度(5段階)及び今後の優先度(重要度が高い取組を3つ選択)について質問した。

#### ①豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる

7つの取組について聞いたところ、満足度は昨年度と比較して概ね横ばいで、今後優先すべき項目は「農林水産・畜産業の若き担い手育成への取組」が58.1%と最も多く、平成28年度から毎年度割合が増えている。

#### ②人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む

9つの取組について聞いたところ、満足度は昨年度と比較して概ね横ばいで、今後優先すべき項目は「結婚・出産・子育ての希望を叶える取組」が49.0%と最も多く、前年度から4.4ポイント増えた。

#### ③幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ

9つの取組について聞いたところ、満足度は昨年度と比較して概ね横ばいで、今後優先すべき項目は「移り住みたい・住み続けたい・帰りたい鳥取県を創造していく取組」が58.0%と、令和2年度から続いて最も多くなっている。

## (2) 男女共同参画社会づくり

### ①男女に関する役割などについて

8つの項目について聞いたところ、「現実として家事が女性の役割となっていると思う」「現実として子育てが女性の役割となっていると思う」「現実として介護が女性の役割となっていると思う」のいずれの項目も「そう思う（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の計。以下同じ。）」の回答は、依然として70%以上の高い割合であるが、これらの3項目について「そう思う」の割合は年度ごとに減少傾向にある。

### ②男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策

8つの施策を提示したところ、「男性の家事・育児・介護への参画を当たり前のことと捉える社会全体の機運の醸成」が60.9%と、4年連続で最も多かった。

## (3) SDGs（持続可能な開発目標）の推進

### ①SDGsという言葉・内容を聞いたことがあるか

「聞いたことがある」は86.4%、「聞いたことがない」は13.0%であった。前年度と比較すると、「聞いたことがある」は13.5ポイントと大幅に増加し、令和2年度からこれまでで最も高く、「聞いたことがない」は13.0ポイントと大幅に減少した。

### ②SDGsの8つの優先課題のうち、「2030年の鳥取県」に向けて行政が特に力を入れるべき課題

「省・再生可能エネルギー、防災・気候変動対策、循環型社会」が46.8%、「平和と安全・安心社会の実現」が41.3%と昨年度に引き続き上位を占めたほか、「持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備」が昨年度より4.5ポイント増加した。

## Ⅲ 重点施策への関心・認識 脱炭素社会を目指す取組について

### ①「脱炭素社会」をめざす取組は、あなたの生活を豊かにするか

「そう思う・ややそう思う」の計は49.3%、「そう思わない・あまりそう思わない」の計は15.6%であった。

### ②「とっとりエコライフ構想」を進めていくうえで、特に重要と考える施策

「森林の保全管理」が53.3%と最も多く、次いで「エコカー（電気自動車(EV)、プラグインハイブリッドなど）の普及促進」が35.5%、「企業等の省エネルギー化(LED照明、断熱)」が34.2%であった。

### ③電気自動車(EV)導入を促進するために必要と思うこと

「低価格化」が79.4%と最も多く、次いで「充電場所の拡充」が63.6%、「補助金の拡充」が49.4%であった。

### ④太陽光発電設備の設置時の初期費用が不要な「PPA（※1）」への関心度

「関心がある」は37.7%、「関心がない」は31.2%であった。

### ⑤とっとり健康省エネ住宅（NE-ST（ネスト）（※2））についての認知度・関心度

- ・とっとり健康省エネ住宅について、「聞いたことがない」が62.5%、「聞いたことがあるが、内容は知らない」が29.2%、「だいたいの内容を知っていた」が6.8%であった。
- ・また、「関心がある」は32.9%、「関心がない」は32.2%であった。

## 3 今後の活用

アンケート結果は、庁内各課と共有し、各種会議のほか、今後の施策の立案や評価・見直し等の過程において基礎資料として活用する。

※1 PPA：自宅の屋根を民間の発電事業者に貸し出して、事業者が太陽光発電設備を設置することにより、自宅の所有者が初期投資の費用負担ゼロで太陽光発電設備を設置し、発電電力を自家消費する契約制度

※2 とっとり健康省エネ住宅（NE-ST（ネスト））：国の基準を大幅に上回る鳥取県独自の住宅性能基準で、高断熱、高气密の家を実現することで光熱費を抑えることができるため、長期的（5～35年程度）に見れば工事費を含めても経済的であるほか、室温差が少ないことから冬季のヒートショックが起きにくく健康的に暮らせる基準